

初めての植物観察通信・秋編 H.26年10月19日開催

先日はお疲れ様でした。秋晴れの最高の天気でしたね。花はもっとお見せしたいものがあつたのですが、あいにく直前に刈り取られてしまっておりました。今後は、ナイロンテープなどで”ここは残して!”と印をしておくことにします。さて、今回は、とくに初学者向けに基本的な用語を知っていただくことに力を入れてみました。なんと言いましても、名前と用語を覚えることが、植物学を楽しむ入り口です。また、中級クラス準備会の方には今回も解説頂きました。無茶振りにもかかわらずありがとうございました。こうして歩いてみると、山の植物たちも、いよいよ冬に向けて一年の扉を閉めようとしている感じがしました。

さて、当日見られた植物につきまして備忘録的にメモを作りましたのでお送りします。私の不勉強からわかりにくかったり、また、間違っていたりすることも時々(しばしばかも?)あるかと思えます。そういったものは、この通信で訂正補足させていただきます。

まず、本日最初に観察したのは、いつも最初に立ち寄るクスノキです。ここでは、葉の構造をお話しましたね。葉身、葉柄など基本の“き”ですので、よく覚えてください。それから、準備会の小川(英)さんからケヤキのお話をいただきました。気にしなければ、せいぜい枝が落ちてるなあと思う程度ですが、種子を遠くに運ぼうとする知恵が隠されていたのですね。その後は、建物を抜けて、博物館裏でフヨウとムクゲを観察しました。フヨウの葉は掌状脈を持っていましたね。また、種子の観察ではフヨウもムクゲも種子に毛がありましたが、生え方は少し違うようでしたね。

その後、キク科のセイタカアワダチソウを見ました。虫媒花らしく昆虫がきて蜜を集めていましたね。同じくキク科のツワブキについては、準備会の小川(彰)さんから詳しくお話いただきました。ひとつの花のようにみえるものは、実際には小さな花の集まり(すなわち花序)であること、中央に雌薬がありその周りを雄薬の葯が取り囲んでいることなどがわかりました。また、周辺にはクサギやチヂミザサなどがあり、観察しました。



クスノキ



ケヤキの種子散布について



フヨウ(左)とムクゲ(右)



種子:フヨウ(左)とムクゲ(右)



セイタカアワダチソウ



ツワブキを使ってキク科の話



ツワブキ



ツワブキの頭花

続いてカスケードの上で、竹の花についてのお話をした後、裏山の森に入りました。森の中ではキチジョウソウが満開でした。雌薬や雄薬の数、花被片の数などを数えました。ちなみにこの植物は、ユリ科とされてきましたが、近年ではジャノヒゲなどと共にキジカクシ目のナギイカダ科に含まれています。その他には、葉に毛の多いシソ科のヤブムラサキ、クワ科のイヌビワを見ました。イヌビワを鹿の餌にする話は驚きでしたが、イヌビワを食べて育った鹿の味が気になりますね。リョウブの木には、ヒメドコロが絡みついていた。準備会の田中さんより、近縁なオニドコロでは、種子の片側だけに翼があるが、ヒメドコロでは全体にあることなど、詳しいお話がありました。峠を越えたところでは、ウラジロ、イノモトソウ、タチシノブ、フモトシダなどシダばかりで、少々初心者向きではありませんでしたが、胞子囊群（ソーラス）のお話などもしました。

森を抜けてからは、紫色のヤブマメやミズヒキを観察しました。ミズヒキでは、雌薬の花柱が曲がって、服などにつくことも観察し、噴水まで戻りました。



キチジョウソウ



ヤブムラサキ



イヌビワ



ヒメドコロの解説



ヒメドコロの果実と種子



ヤブマメ



ミズヒキ



ホトトギス？

質問コーナー

行事の間に頂いた質問にお答えします。ご不明の点は、メールなどでもお問い合わせください。

Qこの花はホトトギスでしょうか？

A：文書館から噴水に向かう途中で、ホトトギスの仲間の植物を観察しました。右上のものがそれです。この時ははっきりと名前がわかりませんでしたので、持ち帰って調べましたところ、基本的にはホトトギスで良さそうです。ただし、雌薬の子房に毛があることなどややしっくり来ない点もあり、園芸的に作られた交雑種の可能性も有ります。ちなみに、今回はお見せできませんでしたが、山の中では右のセトウチホトトギスが花盛りのシーズンです。来年は、見られると良いのですが。



セトウチホトトギス

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖 (いばらぎやすし) Ibaragi-yasushi-1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川上席学芸員がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。